



ら び っ く La·BOOK

12月号

No.30

三郷図書館の文学講座

童話・民話の世界へ

創作の扉～詩と絵と共に～

本年度の「文学講座(全4回)」は、自作朗読家で穂高在住の尾崎美千代先生を講師にお迎



三郷公民館

えして、自作の童話・民話を聞かせていただくとともに朗読技能についても指導していただきました。

第4回(10月2日)は、先生の自宅「浪漫のアトリエ」をお訪ねしました。先生自作の絵が各部屋に心地よくマッチした“純和風美術館”といった趣です。絵の鑑賞後、尺八(紫麓水研先生)と絶妙にコラボした先生の真心が伝わる朗読に酔いしれた一時を過ごしました。受講生の皆さんから「語りあり、絵あり、心ありで、とてもよかった。贅沢で最高の講座でした」などといった感想が寄せられました。

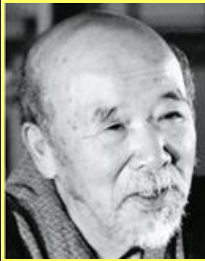


浪漫のアトリエ

明科図書館

奮闘!?調べもの日記(シファレンス)

平民美術宣言をした



望月 桂 (1887～1975) 筆名・犀川凡太郎

1887年(明治20)東筑摩郡中川村(現:明科中川手)生まれ。松本中学校時代から画家を夢み、上京後は彫刻家の書生となり、高村光太郎や藤田嗣治等と勉学して多くの画家達と親交をもちました。1910年(明治43)東京美術学校西洋学科を卒業。

「芸術は売り物にすべきではなく、美術愛好家や金持ちの占有物でもない」との信念をもち、1917年(大正6)平民美術協会<黒輝会>を結成し、日本における民衆美術展の先駆者となり、関東大震災(1923年)までは、毎年同会の展覧会を催しました。また、意気投合していた社会主義者の大杉栄との共著『漫文漫画』を出版(1922年)しました。

犀川凡太郎の筆名で読売新聞社にて漫画を描き、その後は、平凡社の百科辞典にも挿絵を掲載しました。

1945年(昭和20)に疎開のために帰郷した後は、故郷の信州で農民運動に参加したり、社会漫画などを描いたり、美術教師としても活躍しました。

<関係資料>

- 『漫文漫画』(復刻版) 大杉栄/著 望月桂/画 黒色戦線社 1972
- 『東筑摩郡・松本市・塩尻市誌別篇人名』 1982
- 『明科町史 下』 明科町史編纂会編 1985
- 『大正自由人物語 望月桂とその周辺』 小松隆二/著 岩波書店 1988
- 『望月桂展』 八十二文化財団 2002

私と図書館

利用者 小林 文

記憶の最初にある図書館は、五歳までいた広島の図書館。定かではないけれど、赤い絨毯に、低い椅子のおぼろげな記憶が残っている。その次は、鹿児島島の小学校そばの古びた木造図書館。置いてある本もどれも古く、タイムスリップしたような空間だった。達磨ストープの上のやかんのチンチンという音を聞きつつ、唯一の漫画『サザエさん』を読んでいた。

その後は、つくばにきたばかりの現代的な図書館や、白黒の3D写真がきれいに整理されていたアメリカ議会図書館、美術館のようなニューヨーク公共図書館、子どもの小学校近くで頻繁に通った松本市立中央図書館等々いろんな土地のいろんな図書館を訪れた。

図書館は、私にとって心の拠り所である。初めての街でも、悪天候でも、図書館に行けば、見知った本たちが温かく迎えてくれる。興味のある棚を覗いてみると、そこに広がる宇宙にいつしか引き込まれている。リクエストをかけて、少しずつ自分のための本を増やすのもひそかな楽しみ。おそろしくこの先もずっと、図書館は私の最高の友達であり続けるだろう。



11月貸出ランキング

一般書

- 1 夜明けの街で／東野圭吾
- 2 アポロンの嘲笑／中山七里
- 〃 虚ろな十字架／東野圭吾
- 〃 神様のカルテ 3／夏川草介
- 〃 荒神／宮部みゆき
- 〃 アイネクライネナハトムジーク／伊坂幸太郎
- 7 かたづの／中島京子
- 〃 フォルトゥナの瞳／百田尚樹

児童書

- 1 バムとケロのさむいあさ／島田ゆか
- 〃 バムとケロのそらのたび／島田ゆか
- 3 いないいないばあ／松谷みよ子
- 〃 バムとケロのおかいもの／島田ゆか
- 〃 バムとケロのにちようび／島田ゆか
- 6 かいけつゾロリの大金持ち／原ゆたか
- 7 かいけつゾロリのなぞなぞ大さくせん／原ゆたか
- 〃 となりのトトロ／宮崎 駿

AV資料

- 1 崖の上のポニョ／宮崎 駿監督
- 2 1～ONE～／ゆず
- 〃 君という名の翼／コブクロ
- 〃 黒部の太陽／熊井 啓監督
- 〃 のりもの探検隊のりものなんでもNo.1／NHKサービスセンター
- 〃 ハリー・ポッターと炎のゴブレット／リチャード・ゴリアウスキー監督
- 〃 ダンシング・クイーン／ユニバーサル ミュージック

お正月(1月6日～) 全館で実施!!



本のお年玉



年の初めに、いつもと違うジャンルの本を手にしていただいて、新しい発見していただこうと「本のお年玉」を行います。

本のソムリエ（職員）がテーマを考え、そのテーマに合ったおすすめ本3冊を選び、中身が見えないよう英字新聞で包みました。メッセージカードが付いていますので、お好みのセット（一般・児童）をカウンターへお持ちください。各館ともなくなり次第終了となります。

編集・発行・お問い合わせ



- | | |
|-------|----------|
| 中央図書館 | ☎84-0111 |
| 豊科図書館 | ☎71-4022 |
| 三郷図書館 | ☎76-3078 |
| 堀金図書館 | ☎72-5796 |
| 明科図書館 | ☎62-1122 |

図書館ホームページ(蔵書・資料の検索もできます)
<http://www.city.azumino.nagano.jp/tosho/index.htm>

中央図書館から

本のソムリエ（職員）おすすめ本

一般書

『早川クリスティー文庫 シリーズ全102巻』

表紙

アガサ・クリスティー／早川文庫
 1920年の「スタイル荘の怪事件」から始まり、1970年の「フランクフルトへの乗客」まで。

そして、秘密のノートやアガサの自伝まで入れて102巻。主な登場人物のなかでもポアロやミス・マープルはドラマ化されており皆様もご存じだと思います。

クリスティーは晩年になると毎年一作品をクリスマスに発表しており、クリスマスの日にはアガサ・クリスティーの本を読むのがイギリス人の恒例行事となっていたようです。

皆様も今年の年末年始はクリスティーのミステリーの世界をお楽しみください。

児童書

『ふしぎ駄菓子屋銭天堂』

表紙

廣嶋玲子／偕成社

ここにはユニークな名前の願いが叶う駄菓子が売られています。ただし駄菓子を食べる前には説明書をちゃんと読んでね。さもないと…。

幸せになるか不幸せになるか、それはあなた次第。

ドキドキする話から和む話まであり、色々と楽しめる短編集で読みやすい作品です。



※編集後記※

今年の話題の本の一冊に『わたしはマリア』をピックアップした。ご存じのとおりマリアさんは今年のノーベル平和賞受賞者です。彼女の「ひとりの子ども、ひとりの教師、一冊の本、そして一本のペン」が、世界を変えるのです」という言葉は、後々まで語り継がれていくと思つ。